

## 第5章 学生の受け入れ

### 1. 現状の説明

#### (1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

造形研究科では、現在、求める学生像、アドミッションポリシーを明示していない。

#### (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

これまで学生募集のために大学院造形研究科の課程案内を作成してきたが、複数の刊行物で重複する情報を整理する観点から、2011（平成23）年度入試より、本学が実施するすべての入試を網羅する入学試験ガイドの中で入試の概要を掲載し、課程案内に相当する内容を大学案内に掲載することとした。また募集要項については修士課程、博士後期課程ごとに作成し、志願者への広報活動を行っている。

修士課程は専攻内でさらに専門に則したコース制をとっている。美術専攻には日本画コース、油絵コース、版画コース、彫刻コース、造形理論・美術史コース、芸術文化政策コースが、デザイン専攻には視覚伝達デザインコース、工芸工業デザインコース、空間演出デザインコース、建築コース、基礎デザイン学コース、映像コース、写真コース、デザイン情報学コースが設けられている。各コースの専門性がきわめて高いことから、入学試験はコースごとに実施されている。また、学部生の進路選択の観点から、コースによってはA日程（10月）とB日程（2月）の年2回実施している。

2010（平成22）年度修士課程日程別入学試験実施状況は44頁の表「大学院造形研究科（修士課程）入学試験日程」のとおりである。

修士課程の試験科目については大学院の教育目的である「武蔵野美術大学大学院は、学部における一般的・専門的教育の基礎のうえに、美術・デザインに関する専門の技能、理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めた人材を養成し、もって文化の創造・発展に寄与することを目的とする。」（武蔵野美術大学大学院規則第1条）に基づき、小論文、面接を課し、幅広い教養、論述力、研究テーマ並びに研究計画、研究に対する姿勢をみる一方、各コースで研究を進めるにあたり必須となる専門的な技能、知識を作品、論文審査、各コース独自の試験によってみている。

2010（平成22）年度修士課程入学試験の選考方法・提出作品等の詳細は44頁の表「大学院造形研究科（修士課程）選考方法」及び45頁の表「大学院造形研究科（修士課程）選考方法」のとおりである。

博士後期課程の試験については、実技試験は課していない。修士課程との接続性を踏まえ、修士課程までの制作や研究の成果、専門に関する知識、博士後期課程での研究計画や研究に求められる専門的な知識や語学能力に基づいて、博士後期課程での研究の展開の可能性を口述試験（面接）によって評価することを中心として選考を行っている。また、それによって見られない能力を補完する意味で小論文と英語を課している。

造形研究科の学生募集は修士課程、博士後期課程とも一般選抜のみを行っている。募集定員は修士課程が美術専攻28名、デザイン専攻28名、博士後期課程が造形芸術専攻6名となっている。

造形研究科では、基礎となる本学造形学部出身者以外からも広く学生を受け入れており、学内の志願者、学外の志願者とを問わず、同一条件のもとに同一内容の入学試験を受けることになっている。修士課程における過去5年間の受入状況は45頁の表「大学院造形研究科（修士課程）学外からの合格者の推移」のとおり

である。同様に博士後期課程においても、他大学の修士課程修了者を受け入れている。2010（平成22）年度受入者6名のうち、他大学修士課程修了者は1名である。

### **(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか**

造形研究科の入学定員は、修士課程56名（美術専攻28名、デザイン専攻28名）博士後期課程造形芸術専攻の入学定員は6名となっている。収容定員は修士課程112名（美術専攻56名、デザイン専攻56名）、博士後期課程造形芸術専攻の収容定員は18名となっている。造形研究科全専攻の収容定員は130名である。

また造形研究科美術専攻は収容定員56名に対し在籍学生数が118名となっており、収容定員に対する比率は2.11倍となっている。造形研究科デザイン専攻は収容定員56名に対し在籍学生数が113名となっており、収容定員に対する比率は2.02倍となっている。修士課程収容定員112名に対しての修士課程全学年の在籍学生数は231名で収容定員の2.06倍となっている。博士後期課程造形芸術専攻は収容定員18名に対し在籍者が17名となっており、収容定員に対する比率は0.94倍となっている。

### **(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか**

大学院研究科委員会において採点・選考方法を決定し、採点については、面接、作品審査を除くすべての筆記試験、実技試験において匿名での採点を行っている。

判定会議（大学院研究科委員会）では、試験実施概況報告に基づき公正かつ適切に実施されたことを確認、高得点順で合格者を決定している。

学生募集及び入学者選抜については、前年度実施状況を踏まえ、公正かつ適切な実施に向けて入試本部会議、入学試験委員会及び博士後期課程運営委員会において検証し、その在り方についての検討が通年行われている。

## **2. 点検・評価**

### **(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。**

造形研究科の目的（大学院規則第1条）及び修士課程の目的（同規則第2条第4項）並びに博士後期課程の目的（同規則第2条第5項）を適切に反映させた学生の受け入れ方針を定める必要がある。

なお、求める学生像の策定に当たっては、教員へのアンケート問13「その人材を育成するに当たり、どのような学生を受け入れたいか、どのような入学制度をとるべきと考えるか」の回答（要約）を参考にすることが可能である。

#### **〈修士〉**

- ・自己分析できる学生。
- ・制作への強い意志を持つ者、毎日の積み重ねをきちんと継続できること、積極的に自己の研鑽が積める人材。
- ・広く専門家を志向する者。
- ・専門性が明確なこと。
- ・志の高い研究心に富む学生。
- ・好奇心にあふれたアクティブな学生。

- ・広い教養を学部時代にバランスよく身につけ、それを土台により専門的な分野を極めたいと思っている学生。
- ・表現行為を論述しようと試みる姿勢を持つ学生。
- ・デッサン力と構成力が基礎。美大の大学院で学んだという実績を、普通の人に伝える事が出来る最も基本的な能力は、「絵が描ける」という力を持っているか、「伝えたい」という意志を持っているかということ（視覚伝達デザインコース）。
- ・建築の設計の考え方・方法について、新たな道筋を聞きたいと考える熱意を持ち、それを建築という形に作り（設計制作し）ながら行うことの出来る学生。

#### 〈博士後期〉

- ・自ら求めて研究する意欲のある学生。
- ・深く追求し、個性的な感覚と実力を持った人材。
- ・制作における批評的な文脈が明確であること。
- ・研究を中心に行う学生の場合、論文を書く経験を持ち、博士課程で何を研究するか、何を調べればよいか、どのような方法・スケジュールで研究すればよいか、その研究の意義は何であるかを明確にしていること。
- ・自作を分析し、環境や世界と関係づけられる学生。
- ・研究者としての自覚を持ち、明確な目的を持っている学生。研究者としてのキャリアを始めている人。
- ・専門知識を持っているだけでなく、それを教え伝えようと試みる姿勢を持つ学生。
- ・すでにある程度以上の研究能力のあるもののみを入学させる。論文能力は必須である。
- ・研究者としてのキャリアを始めている人。

### (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

造形研究科の目的（大学院規則第1条）及び博士後期課程の目的（同規則第2条第5項）に基づき、志願者の研究に対する姿勢、当該専門分野に関する業績及び能力、研究テーマに対する思考法や方法論を見る試験内容となっており、公正かつ適切な学生募集及び入学者選抜を実施している。

なお、今後の在り方を検討するに当たっては、学生募集方法、入学者選抜方法に関連するアンケート問11「現在の大学院入学試験について」及びアンケート問13「その人材を育成するにあたり、どのような学生を受け入れたいか、またどのような入試制度をとるべきと考えるか」の回答（要約）を参考にすることが可能である。

#### 〈修士課程〉

- ・油絵コースのレベルは高く、受験生も多い。他大学からの優秀な学生を受け入れる受け皿が他にあっても良いのではないかと思う。例えば共通系の新しいコースを新設しても良いのでは？
- ・学外から受験しやすい日程かどうか（学外からの受験者を増やすことが重要と考えるので）。
- ・留学生の受入れに、定員に別枠を作っても積極的に取り組むべき。
- ・半分は他大学の学生を受け入れたい。
- ・学外から受験しやすい日程かどうか（学外からの受験者を増やすことが重要と考えるので）。
- ・A、Bのどちらの日程に応募者が多いのか年によって変動することが多く、合格者数の決定が難しい。
- ・日程はAかBのいずれかでよいのではないか。留学生は積極的にとるとよい。
- ・AB日程については現行のままで良いと考える。
- ・留学生については事前面接が重要であり、重要性を認知させる仕組みが必要。そのためにこれまでの院生の研究内容や作品紹介、学生のことばなど、英・韓・中の多言語で丁寧に紹介するようなシステム、HP

が必要だと考える（大学院生の業績を徹底的に世界に紹介する仕組みづくり）。

- ・複数の分野の基礎知識を文章で説明させるような試験。専門分野に限定せず、幅広い知識を問う、面接も行う。
- ・特にデザイン系では社会人枠を広げ、入学しやすい仕組み作り。現職の教員などを受け入れやすくする入学制度。
- ・独自の関心分野の表明。どう展開しようとしているかを問う。
- ・研究計画書と小論文を厳密に評価すべきである。
- ・作品・論文・面接・審査（研究意欲、問題意識）。

#### 〈博士後期課程〉

- ・3月という遅い時期であるために、すでに他大学院に手続をとっている受験予定者が出ているかもしれない。
- ・もう少し早い時期（12、1月）に試験を実施できればと思う。
- ・多くの留学生が希望していると思うが現実の実力を考えると後期課程の全員が博士になるのは困難だと思う。入試の段階で、その判断をすることが彼らのためだと思う。
- ・留学生の日本語能力（日本語で論文を書く能力）を厳しくチェックして欲しい。
- ・留学生によっては博士後期課程に直接入学するのではなく、十分な日本語と研究方法を1年かけてやってから入学を許可するのがよい。
- ・以前の無責任な状況（研究能力のないものを入学させていた問題）は是正されたが、更なる努力が必要。
- ・作品制作の領域の場合、博士論文を提出する事に対する明確な動機が欠けている。
- ・教員の博士課程というレベル認識の差があり、事前相談を複数の教員で行う事を提案する。
- ・修士論文・作品・研究計画書の審査、面接。
- ・論文の提出・研究計画書の提出・面接。
- ・自作を分析し、環境や世界と関係づけられる学生を受け入れたい。－入学時の作品審査の徹底。
- ・博士論文・制作に関連した内容のプレゼンテーションを評価すべきである。
- ・作品制作領域の学生にも、入試で論文の提出を義務づけるべきである（40～50枚ほどの）。
- ・作品・論文・面接・審査（社会にフィードバックする能力）。
- ・これまでの制作・研究について知ることの出来る入学制度（事前の面接時間の確保）。

### (3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

収容人数については各コース研究室からの希望により、学生の相互啓発・活性化や指導効果等の観点から望ましいと思われる募集人数を確保した結果であり、超過人数もコース毎では数名であり、授業に支障ない範囲での受け入れとなっているものの、2008（平成20）年度認証評価において、「造形研究科修士課程における収容定員に対する在籍学生数比率が、美術系大学院としては1.84と高いので、研究指導の質を実質的に担保する観点から改善が望まれる」との助言を受けた。2012（平成24）年7月時点での対応が求められており、改善が急務である。

なお、収容定員に関連するアンケート回答の要約は以下のとおりである。

- ・この課程の油絵学科は希望者が内部・外部とも多数いるのに、アトリエの関係で20名定員としていることが残念。
- ・油絵学科のレベルは高く、受験生も多い。他大学からの優秀な学生を受け入れる受け皿が他にあっても良

いのではないかと思う。例えば共通系の新しいコースを新設しても良いのでは？

- ・留学生の受け入れに、定員に別枠を作っても積極的に取り組むべき。
- ・20名近い不合格者が出てしまうのが問題。外部生はほとんど入れない。更にアトリエを整備し、定員を増やすことを考えても良い。
- ・昨今、学部からの入学希望者が増えている。不況のため就職を断念する学生も出てくると考えられる。特にB日程での本学卒業生と比較すると、他大学・他学科・留学生とのレベル差は大きく、人数制限（スペース問題のため）があると彼等の入学が難しくなる。

#### **(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか**

学生募集及び入学者選抜については、公正かつ適切に実施されており、また入試本部会議、入試委員会、博士後期課程運営委員会及び研究科委員会での公正かつ適切な実施について定期的に検証しており、問題はない。

### **3. 将来に向けた発展方策**

#### **(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。**

修士課程については入試委員会及び研究科委員会、博士後期課程については博士後期課程運営委員会及び研究科委員会において、それぞれ学生の受け入れ方針を定め、学内外に明らかにすることが求められる。

#### **(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。**

現状の実施状況を上記（1）において策定する学生の受け入れ方針に照らし合わせ、入試委員会及び研究科委員会、博士後期課程については博士後期課程運営委員会及び研究科委員会において、その公正性、適切性について検証することが求められる。

#### **(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。**

認証評価での助言を受け、現在教務部において検討を進めているところであるが、平成24年7月までに収容定員増を実施または計画し、適正な在籍学生数管理を行うことが求められる。

#### **(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか**

現状の実施状況を上記（1）において策定する学生の受け入れ方針に照らし合わせ、入試委員会及び研究科委員会、博士後期課程については博士後期課程運営委員会及び研究科委員会において、その公正性、適切性について検証することが求められる。

大学院造形研究科（修士課程）入学試験日程

専攻	コース	入学試験日程	
		A 日程（10 月）	B 日程（2 月）
美術専攻	日本画コース	—	○
	油絵コース	—	○
	版画コース	—	○
	彫刻コース	—	○
	造形理論・美術史コース	○	○
	芸術文化政策コース	○	○
デザイン専攻	視覚伝達デザインコース	○	○
	工芸工業デザインコース	○	—
	空間演出デザインコース	○	○
	建築コース	○	○
	基礎デザイン学コース	—	○
	映像コース	○	—
	写真コース	○	—
	デザイン情報学コース		○

大学院造形研究科（修士課程）選考方法

専攻	コース	選考方法	提出作品等
美術専攻	日本画コース	書類審査、面接、作品審査、小論文、実技（素描）	日本画近作 100 号程度 2 点 (そのほかにポートフォリオを提出してもよい)
	油絵コース	書類審査、面接、作品審査、小論文、実技（デッサン）	①近作 2 点 ②ポートフォリオ (A4 サイズのファイル 1 冊にまとめたもの)
	版画コース	書類審査、面接、作品審査、小論文、実技（デッサン）	①版画近作 5 点 ②ポートフォリオ (A4 サイズのファイル 1 冊にまとめたもの)
	彫刻コース	書類審査、面接、作品審査、小論文、実技（デッサン）	①彫刻近作 2 点 ②ポートフォリオ
	造形理論・美術史コース	書類審査 面接 作品審査 小論文 外国語（英語） 専門基礎（筆記試験）	A 日程：近作 1 点（作品又は研究論文） (作品にはその創作意図について 2000 字程度の解説を添える。大学卒業見込者については研究計画書 4000 字程度を提出してもよい) B 日程：近作 1 点（作品又は研究論文） (作品にはその創作意図について 2000 字程度の解説を添える。大学卒業後 2 年を超える場合は、卒業制作又は論文とともに、最近の作品又は研究論文も提出すること)
	芸術文化政策コース	書類審査 面接 作品審査 小論文（英語含む）	①研究計画書 (研究テーマを A4 サイズ、ワープロ 1200 字程度にまとめたもの) ②ポートフォリオ(論文などをまとめたもの)

## 大学院造形研究科（修士課程）選考方法

専攻	コース	選考方法	提出作品等
デザイン専攻	視覚伝達デザインコース	書類審査、面接、作品審査、小論文及び設問	ビジュアルデザインに関する近作2点以上 (ただし提出物に研究論文を加えてもよい)
	工芸工業デザインコース	書類審査 面接 作品審査 小論文	工芸工業デザインに関する下記のものを出 ①作品2点以上 ②ポートフォリオ又は論文 ③大学院入学後の研究計画案 (A4サイズ、書式自由、800字以上1200字以内)
	空間演出デザインコース	書類審査、面接、作品審査、小論文	空間演出デザインに関する近作2点以上
	建築コース	書類審査、面接、作品審査、小論文、外国語(英語)	近作(建築作品)
	基礎デザイン学コース	書類審査、面接、作品審査、小論文、外国語(英語、ただし外国人は日本語の選択も可)	近作1点(作品又は研究論文) (そのほかにポートフォリオを提出してもよい)
	映像コース	書類審査 面接 作品審査 小論文	①近作2点 (論文又はポートフォリオも含む) ③研究計画書 (A4サイズ、書式自由、800字以上1200字以内)
	写真コース	書類審査 面接 作品審査 小論文	①近作2テーマ以上 (論文又はポートフォリオも含む) ③研究計画書 (A4サイズ、書式自由、800字以上1200字以内)
	デザイン情報学コース	書類審査、面接、作品審査、小論文、外国語(英語)	ポートフォリオ (過去2年間の作品、論文などの研究成果をA3判のファイル形式によって、わかりやすくまとめたもの。補足資料として論文及び制作物、メディアに収録した作品を添付することも可)

## 大学院造形研究科（修士課程）学外からの合格者の推移

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
学外からの志願者数	90	95	104	81	107
学外からの合格者数	32	32	32	24	36